

SUIJIセミナー2013 高知大会
セッション2 事例報告
学びを促す場としての地域：日本の事例から

日本のサービスラーニング 高知大学の経験 ～社会協働教育の実践～

2013年8月29日

塩崎 俊彦 (総合科学系・地域協働教育学部門・教授)
(総合教育センター・大学教育創造部門・部門長)

日本におけるサービスラーニングの考え方

◆中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(2012/8/28)

教育活動の一環として、一定の期間、地域のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動を体験することによって、それまで知識として学んできたことを実際のサービス体験に活かし、また実際のサービス体験から自分の学問的取組や進路について新たな視野を得る教育プログラム。

サービス・ラーニングの導入は、①専門教育を通して獲得した専門的な知識・技能の現実社会で実際に活用できる知識・技能への変化、②将来の職業について考える機会の付与、③自らの社会的役割を意識することによる、市民として必要な資質・能力の向上、などの効果が期待できる。

詳細は：<http://www.human.tsukuba.ac.jp/gakugun/k-pro/aboutSL/aboutSL.html>

高知大学で実践しているサービスラーニング ～社会協働教育～

- ①地域や企業、組織が有する「人を育てる力」を活かした教育
- ②キャンパスは地域、テキストは人
- ③自律した人間として人生を生き抜く力の獲得を目指す教育スタイル



地域や企業等の教育力を活かした教育

- 「新たな社会のニーズ」に corres える人材の育成
- 学生のニーズー自律した人間として人生を生き抜く力の獲得ーを満たす教育

キャンパスは地域、テキストは人

- 地域社会と大学・学生が「Win-Winの関係」になれる授業とカリキュラム
- 地域の持続的未来にむけた手助け
- 学生が地域に関わることによって自らの能力を伸長させていく教育プログラム

地域協働入門Ⅲ

9月5日;事前学習

9月6日～8日;スタディー・ツアー
黒潮一番館・砂浜美術館
であいの里みながわ

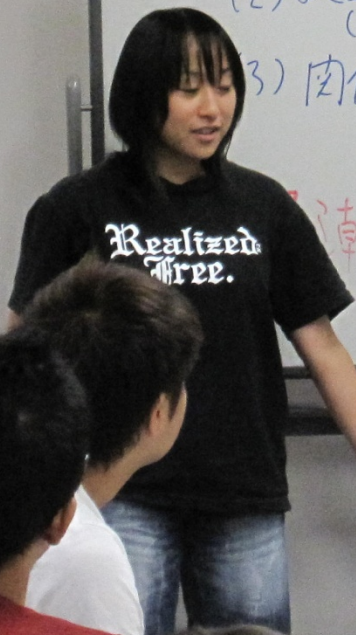
9月9日;事後学習



徳島県

愛媛県

事前学習

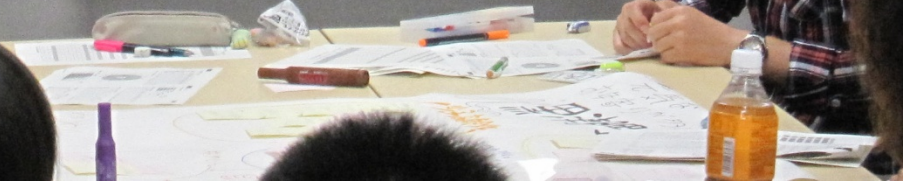


(1) 似た
(2) まとめた (島)
(3) 関係の

黒潮号は隠れた名所

良..所	悪..所
高齢者が多く働いている 元々高齢者	少年高缺水 高齢化 作進行
文化継承の地 とびきり運動	農家大減少 農業の減少 農業者の減少 高齢化
魚の採りやすい場所	魚の採りやすい場所
みろのウツ!!	みろのウツ!!
はてしなく	はてしなく
人口多い	人口多い

Produced by Team 黒潮号



事前学習でのイメージ

- 自然が豊か／観光資源が豊か
- 人口が少ない
- 高齢化が進んでいる
- 若い人が少ない／活気がない

⇒ 活性化に向けた提案ができるのでは？



防風林の保全作業



地域の人と食事の用意



地域活性化の取組を聴く

住民へのインタビュー





ビーチ・コーミング



川エビ獲り

事後学習での振り返り

- おじいちゃん、おばあちゃんが元気！
 - 地域のことを真剣に考えている！
 - この風景やコミュニティは変わらないでほしい！
- ⇒「地域が幸せになる」って、本当はどういうことだろう？

1年生のサービスラーニングでの現場目標

人と向き合える(他者や地域に関心を向ける)

人の話を聴ける(目を見て聴く、質問できる)

自分の行動を管理できる(遅刻をしない、片付ける)

人としてのマナーを身に着ける(あいさつする、返事をする、お礼を言う、謝ることができる)



多様な価値観に触れる
共感する
自己の価値観を理解する

2年生のサービスラーニングでの現場目標

主体的に各種行事にかかわることができる

対象者・関係者・自分自身が置かれている状況を考える

イベントなどを企画し実践できる

実践結果を検証し、発表できる

実習先の活動を伝えることができる



地域を理解する
人のつながりをつくる
グループでの協力関係を築く
自己の能力を広げる

社会協働教育 ～到達点と課題～

1) 到達点 社会協働教育を進めるための協働ネットワークの構築

①地域とのネットワーク

これまでに社会協働教育を実施したフィールド(コミュニティ及び企業等組織を含む)は、40か所近くになる。そのうち、現在も継続的に実働しているフィールドは20か所に及ぶ。また、フィールド開発を通じてキーパーソンとのつながりも構築してきた。これらのキーパーソンは50名を上回り、「社会人師匠リスト」に掲載して社会協働教育関係の情報を大学から配信するとともに、「社会人師匠」からの地域情報を学生に発信して、つながりを保っている。地域とのつながりを担保する機関として総合教育センターにリエゾンオフィスを設置し機能強化を図った。

②学内ネットワーク

高知大学国際・地域連携センター地域再生部門との連携、農学部及び教育学部の一部との連携が生まれている。特に2学部との連携は、地域フィールドを共有して互いの特色を生かしたプロジェクト等の実施を行うに至っている。

2) 課題 社会協働教育を進めるための協働ネットワークの構築

①社会協働教育を担う教員の拡充と安定確保の必要性

社会協働教育を大学教育一特に学士課程教育一において広めるためには、今以上に担い手となる教員を拡充するとともに安定的に確保する必要がある。現在、地域協働教育学部門に所属する14名が、外部の協力教員の助けを得て社会協働教育を全学に提供している。しかし、この方式には限界がある。現在、コア教員として機能している教員の3分の2は、各学部の専任担当の責務を果たした上で、ボランティアとして社会協働教育を担っている。こうした状況は持続可能ではない。社会協働教育に専念できる拠点を構築する必要がある。

②4年一貫のカリキュラムを権限と責任を持って実施する必要性

共通教育は、各学部が集まってカリキュラムを編成し運営する共通教育実施機構によって担われている。したがって、4年一貫のカリキュラムを編成して入学から卒業まで教育に責任を持つ組織ではない。総合教育センターも然りである。入学から卒業までの全過程に責任を持ってカリキュラムを編成し教育を行う、権限を持った組織が必要である。